



UNAIDS Feature Story

国連副事務総長が、責任ある UNAIDS の移行とエイズ対策への 国連の継続的関与を再確認

2025 年 12 月 22 日

ブラジルで開催された国連合同エイズ計画（UNAIDS）の第 57 回プログラム調整理事会（PCB）にアミナ・モハメッド国連副事務総長が出席し、公衆衛生上の脅威としてのエイズ終結の実現まで、国連は各国政府、コミュニティと共にあることを明確なメッセージとして伝えた。

副事務総長の発言は、PCB の議論が包摂的かつ建設的に進められていることを称え、現在進行中の UN80 改革プロセスが世界のエイズ対策を弱めるためではなく、強化を目指すものであることを再確認している。また、改革は慎重な手順を踏んで、有効に機能するようにしなければならないことも強調した。「緊急に取り組む必要があることは確かですが、失敗するために急ぐわけではありません。共通の認識を確認しつつ進める必要があります。とりわけ、ここ数週間にわたって、PCB と市民社会組織から表明された懸念事項に関してはこの点が大切になります」と副事務総長は述べた。

資金を受ける国とドナーの双方に財政的圧力が高まっていることをモハメッド副事務総長は指摘し、とりわけ低・中所得国では債務負担とその返済コストにより、国内資金の逼迫が深刻化していると強調した。「政府が HIV/エイズ対策の予算を優先させたいと考えていても、それは率直に言って、教育や保健医療からの資金を奪うことになってしまう。そちらの費用への手当ができなくなるからです」とモハメッド副事務総長は語る。「いま UN80 で提案した

戦略と改革案（UNAIDS もその対象の一つ）を通じ、私たちが果たすべき役割の一つは国際社会というものを再び取り戻すことです」

UN80 イニシアチブは、目標達成に向けて国連開発システムの統合性を高め、急速に変化する世界の中で、より求心力の高い活動が可能になることを目指している。それが UNAIDS にとっては二段階の移行ということだ。UNAIDS の中核機能を維持し、世界のエイズ対策に価値ある貢献を果たすこと、すなわちリーダーシップとアドボカシーの機能を重視し、招集と調整、説明責任とデータ、そしてコミュニティの関与を維持していく機能に特化することを目指している。

PCB は今回の会合で、HIV 対策の新たな段階（ネクストフェイズ）に向けた重要な議案を採択した。

■ **世界エイズ戦略 2026-2031**：エビデンスを踏まえ、人権とジェンダーの平等、コミュニティのリーダーシップを基盤とした大胆なロードマップ。2026 年のエイズに関する国連総会ハイレベル会合の政治宣言に向けた交渉の指針となる。

■ **UNAIDS と UN80 改革**：プログラム調整理事会は、より広範な国連開発システム再編の中で、UNAIDS という共同プログラムを責任ある包摂的な形で移行させることを確認した。2026 年初頭に PCB 作業部会を設置し、秩序正しく透明性を保ったプロセスによって UNAIDS の中核的機能が確保できるようにする。

「私は議長を務める国連持続可能な開発グループの中で数多くの事例を見てきました…これは本当に素晴らしい事例です。理由ははっきりしています。役割分担が明確なのです。とりわけ、今回のケースで注目すべきは、PCB において、市民社会がこれほど強い発言力を持つという、まさに包摂的な姿勢が示されてきたことだと思います」とモハメッド副事務総長は述べた。

今回の PCB 会合では、長期作用型抗レトロウイルス薬に関するテーマ別討論も 1 日ばかりで行われ、HIV 予防と治療に変革をもたらす可能性が注目された。政治的意思と資金、そしてパートナーシップがあれば、これらの革新的成果が新規感染を劇的に減少させ、エイズ終結に向けた動きも大きく加速する。

「エイズ終結は依然、可能です」と副事務総長は締めくくった。「しかし、私たちの野心的目標に見合うかたちで資金が確保されれば、という条件付きです」